

2 定期点検（8時間／日運転を想定します）

点検項目	点検目安	点検内容
据え付けボルト	半 年	スパナでゆるみ確認 ゆるみは増し締め
チエーン及び Vベルト	半 年	張り具合（ゆるみ、張りすぎ）の確認 ゆるみ、張りすぎは調整してください
モータの絶縁抵抗	半 年	絶縁抵抗器で500Vの時 $1\text{M}\Omega$ 以上のこと
ブレーキ	ギャップ量	1年または ブレーキ使用回数 100～150万回
	摩擦板の厚さ	適正ギャップ範囲か確認（P22参照） 調整はP22を参照して行ってください
		摩擦板の厚さを確認 1.5mm以下の時は交換又は専門工場で修理してください

点検にて異常が認められた場合は、「故障の原因と対策」P23を参照して対策処置を行ってください。

[注] 防水・防塵構造ボックスのフタは、絶対に開けないでください。

防水・防塵効果が失われます。

3 ブレーキギャップの調整方法

危険

- 1 ギャップ調整時は、必ず電源を切って行ってください。けがの恐れがあります。
- 2 ギャップの点検、調整後は、本運転する前に電源を入、切してブレーキの動作を確認してください。落下、暴走事故のおそれがあります。
- 3 点検、調整後は、ファンカバー（又はブレーキカバー）を外したままモータを運転しないでください。巻き込まれ、けがのおそれがあります。

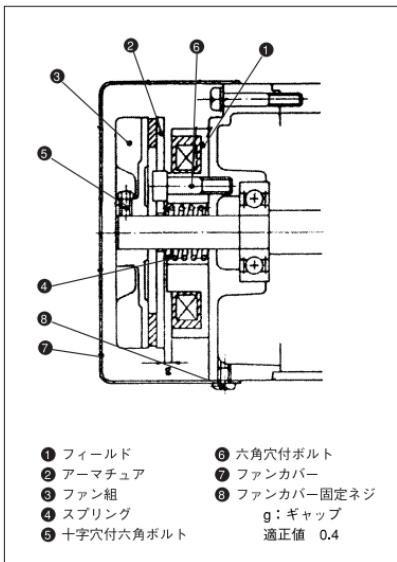
（1）ブレーキ付ギアモータのブレーキギャップの調整方法

ブレーキを長時間使用いたしますと、摩擦板が摩耗しギャップ[g]が徐々に大きくなります。ギャップ[g]が吸引可能ギャップより広がりますと、マグネットを励磁してもアーマチュアの吸引力が困難となりブレーキのブレーキの解放ができなくなります。その後も使用し続けますと、ブレーキが効いたままモータを回すことになりますので、ブレーキやモータの異常発熱を起こしブレーキモータの機能を低下させます。本機を安全に使用していただくために定期的（約1年毎又はブレーキ使用回数100～150万回毎）にギャップの点検又は調整を行ってください。防水・防塵構造ボックスのフタは、絶対に開けないでください。

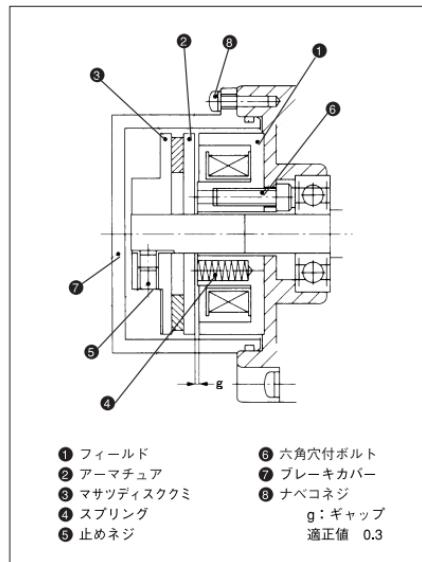
■ギャップの調整方法

- ①ファンカバー（ブレーキカバー）を取りはずします。
 - ②十字穴付六角ボルト（止めネジ）をはずします。
(ゆるみ防止のネジロックが塗布してあります)
 - ③スキミゲージによって、適正ギャップに調整してください。
 - ④十字穴付六角ボルト（止めネジ）にネジロックを塗布してファン組（マサツディスククミ）を固定してください。
 - ⑤ファンカバーを組付けてください。(防水の場合はブレーキカバーのOーリングに傷がないかを確認して組付けてください。傷がついたら交換してください)
- [注]摩擦板に油・ごみなどを付着させないでください。
ブレーキ性能をそこなうおそれがあります。

【標準タイプ】



【防水タイプ】



ブレーキを長時間使用いたしますとギャップgが0.8mm以上になってブレーキ解放ができなくなります。
定期的にギャップの調整、点検を行ってください。

(2) クラッチ/ブレーキ付ギアモータのブレーキギャップの調整方法

本製品のクラッチおよびブレーキには弊社独自のオートギャップ機構が組込んでありますので、摩耗によるギャップ調整は不要です。